

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	武蔵野東技能高等専修学校の混合教育の普及		
学校法人名	学校法人 武蔵野東学園		
学校名	武蔵野東技能高等専修学校		
代表者	学校法人 武蔵野東学園 理事長 寺田 欣司	担当者・連絡先	武蔵野東技能高等専修学校 進路指導部 今城 慎一郎

<事業の概要>

近年の高等専修学校では、多くの学校が何らかの障害のある生徒を受け入れている現状があります。また、先般、発達障害者支援法が成立され、今後、ますます自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害など、発達障害のある生徒（以降 自閉症等とする）が多く高等専修学校に入学してくることが見込まれます。本事業では、高等専修学校における混合教育（健常児と自閉児等の発達障害のある生徒が共に生活し、共に学び、互いに刺激し合い成長する）により、生徒それぞれの個性に着目して若年期の柔軟な可能性を引き出し、最大限に伸ばすカリキュラムの編成とプログラムの研究開発を20年にわたる実践記録としてまとめ、広く他の高等専修学校や教育関係者等に頒布し、教育形態を全国に普及することを主旨としました。また、進路指導をより効率的に行う為に、タイムリーな情報を得る手段として、産業界や識者の方と合同セミナーを開催し、様々な角度から意見を得ることができました。

<成 果>

① **混合教育20年間の教育実践記録**

第1章 学園の変遷

- I. 創立者と創立者の教育理念
- II. 武蔵野東幼稚園の誕生から高等専修学校設立まで
 1. 幼稚園の誕生・・・学園のはじまり
 2. 小学校設立・・・理想の学校誕生
 3. 中学校設立・・・義務教育の完成
 4. 高等専修学校設立・・・社会自立に向けて

第2章 本校の教育理念

- I. 創立の理念と意義
- II. 理想とする人間像
- III. 教育方針と重点指導の変遷

第3章 混合教育と個性を生かす人間教育の実際

- I. 健常児の教育
- II. 自閉児の教育
- III. 日々の教育
 1. 混合教育カリキュラム
 2. HRカリキュラム
 3. 進路指導カリキュラム

職業観の育成
健常児の進路指導
自閉児の進路指導

4. 教科指導

一般教科（国語、数学、社会、英語、音楽、保健体育）
専門教科（家政、技能、文化教養）

5. 教育行事

1年生研修、スポーツ大会、臨海学習、マラソン大会、学園祭（紫峰祭）、合唱コンクール、スキー教室、3学年ハワイ学習、

6. 友愛会活動

7. クラブ活動

8. 特別活動

自己開示スピーチコンテスト、交流授業、ボランティア活動、ボストン研修、校

外交流、

ホームヘルパー2級資格取得講座、

9. 保護者の理解と協力

第4章 混合教育実践の記録

I. はじめに

～本校の混合教育と国内外の動勢～

II. 混合教育の実際

1. バディシステムの導入期

2. バディ選定に関する留意点

3. 健常児が自閉児から受ける影響について

4. 不登校生が自閉児から受ける影響について

5. 自閉児が健常児から受ける影響について

6. 混合教育を実施していく際の留意点

7. 混合教育におけるトラブルと解決

8. 生徒に投げかける教師の言葉

9. 社会に続く混合教育

10. 保護者の混合教育理解に向けたプロセス

11. 保護者同士の影響

12. 保護者に投げかける教師の言葉

III. 高等専修学校を取り巻く環境

IV. 混合教育における生徒の出席状況

V. 退学者を出さない教育

VI. 混合教育の今後の展望

VII. 参考資料

第5章 創意ある環境条件

I. 2学期制の導入

II. 体育科設置について

III. 寮ウイステリア福生について

IV. クラス編成と教員の指導体制

1. クラス編成について

2. 担任副担任制について

V. 後援会と同窓会のバッグアップ

1. 後援会組織について

2. 同窓会について

VI. 友愛寮とチャレンジショップ

第6章 メディア、書籍

I. 本校が取り上げられたメディア

1. こころの二人三脚

2. ラグビー部

3. 『私のしごと』作文コンクール

- ・スピーチコンテスト（人に伝える、意見を述べるための学習）
- ・その他
ハワイ学習・マラソン大会・スキー教室

4. バディシステム

- ・バディシステムのねらい
- ・バディを組ませる際の配慮、支援
- ・臨海学習を中心にバディを組む

5. 一年間を振り返って

- 1年間を振り返り、自分がもっとも変わったと思うこと
- 思い出に残る行事
- バディに対して
- 2年生になるにあたって
- 1年生にインタビューを行う。

6. 卒業生たちは

- 高等専修学校での3年間の思い出
- 卒業を控えた3年生、ならびに卒業生にインタビューを行う

③ **障害者雇用の実態DVD**

障害理解を分かりやすくすすめるため、企業就労された卒業生243名より21名をピックアップし、DVDにその「就労の様子」、「職場の方のコメント」、「本人のコメント」を盛り込み、2枚組に収めたものを作成しました。

構成としましては、製造（2事業所）、スーパー（4事業所）、洗浄（2事業所）、清掃（2事業所）、事務補助（2事業所）、調理（2事業所）、クリーニング（2事業所）、その他の業種（4事業所）となっており、幅広い業態で活躍する本校の卒業生の様子を見ていただくことができます。

このDVDは、とても好評で、各ハローワークにいらっしゃる雇用指導官（事業所に直接行政指導を行う）の方々が、事業所訪問時に携帯していると伺っております。これまで、漠然としていた自閉症者の就労スタイルのイメージを解消するために、訪問先でDVDを見ながら、新たな職域開発に役立てていく為だそうです。

総 括

『武蔵野東技能高等専修学校の混合教育の普及』をすすめていくことで、確実に高等課程の個性化推進が行えると自負しております。と申しますのは、高等専修学校全体〔下記アンケート結果から1校あたりの平均在籍数（障害のある生徒数）を算出すると3.1人となる〕に希望をもたらすことは、今回実地調査で訪問した2校に於いて、本校のノウハウを活用することが有意義であることを確認できたことから、明らかなと考えるからです。

全国高等専修学校協会 制度改善研究委員会の実施したアンケート結果

(平成16年末・平成17年2月 2回実施)

会員校238校中 124校より回答 (回答率 52.1%)

在籍数 19,478人

障害のある生徒数 382人・・・(全体の2.0%)

障害のある方とない方とが自然な交流を学校生活の中で行うことは、卒業後にこそ大きな変化をもたらします。この自然な交流のない方々が、学校卒業後、いきなり実社会で巡り会い、共に生産活動に従事することを想定しますと、多くの障壁があることは容易に想像がつきます。この障壁は一体何かということについて、突き詰めていけば、本校の推進する混合教育の必要性がおのずと分かるはずです。

障害の「ある」「なし」は、特別なものではなく、区分すべきものでもありません。大切なことは、お互いの個性を知り、支え合うということなのではないでしょうか。個性は十人十色なので、個性と個性が相交わることは不可能ですから、円滑な人間関係こそが生きていく上で最も難解な命題と言えます。

学校教育を受けられるのは人生のほんの一部だからこそ、その限られた時間に可能な限り多くの体験を通して人の気持ちが分かる人間教育に力を注ぐことが必要なのではないのでしょうか。

本事業の成果物（20年間の教育実践記録・混合教育DVD・障害者雇用の実態DVD）が、全国の高等専修学校に普及し、そのノウハウが取り入れられれば本事業の研究活動に従事した本校教員一同、これ以上の喜びはありません。しかしながら、一様にその環境もろとも整えていくことは不可能です。ですから、それぞれの教育環境に応じてアレンジをしていただかなければならないかもしれません。

実際に、学園全体へは年間400組程の見学者がありますが、「うちではできない」といったニュアンスの感想が多く聞かれます。

本事業の研究成果が、少しでも皆様方のお役に立てれば幸いです。